

EXCEL VBA用 CODE128バーコードライブラリ 関数解説 By NightWork

色のセルに入力することで動作を確認することが可能です。

メイン関数

関数名	CODE128_Text2Code128			
説明	「文字列」を「CODE128文字列」に変換します。「コードセットA」及び、「コードセットB」を自動で判別・切替を行います。一定桁以上数字が連続する部分は「コードセットC」による圧縮が行われます。 「スタートキャラクタ」、「チェックキャラクタ」及び、「ストップキャラクタ」は自動で付与されます。			
書式	CODE128_Text2Code128(text,[newline_char],[no_comp],[start_char],[use_shift])			
引数	text	文字列型	必ず指定します。「CODE128文字列」に変換する「文字列」を指定します。 「ASCII文字」(英大文字、英小文字、数字、記号、制御文字) が使用可能です。 「ASCII文字」及び、「CODE128文字」以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。	
	newline_char	整数型	省略可能です。改行コードの自動変換をするかどうかを指定します。 0から3以外の数値が指定された場合、0が指定されたときみなされます。	
			0または省略	改行コードの自動変換を行いません。
			1	"CR+LF"を使用します。"LF"及び、"CR"を"CR+LF"に変換します。
			2	"LF"を使用します。"CR"及び、"CR+LF"を"LF"に変換します。
			3	"CR"を使用します。"LF"及び、"LF+CR"を"CR"に変換します。
	no_comp	整数型	省略可能です。「コードセットC」による圧縮を使用するかどうかを指定します。 0から1以外の数値が指定された場合、0が指定されたときみなされます。	
			0または省略	「コードセットC」による圧縮を使用します。
			1	「コードセットC」による圧縮を使用しません。
	start_char	整数型	省略可能です。「スタートキャラクタ」の選択方法を指定します。 0から2以外の数値が指定された場合、0が指定されたときみなされます。	
			0または省略	「スタートキャラクタ」を自動選択します。使用するスタートコードはテキスト中で最初に出現した「コードセットA」又は、「コードセットB」にしか存在しない文字によって決定されます。 該当する文字が無い場合は「スタートキャラクタA」が使用されます。
			1	明示的に「スタートキャラクタA」を使用します。 「コードセットA」として解析を開始します。
			2	明示的に「スタートキャラクタB」を使用します。 「コードセットB」として解析を開始します。
	use_shift	整数型	省略可能です。「コードセットA」及び、「コードセットB」間での切替が必要な場面において、「コードキャラクタ」の代わりに、「シフトキャラクタ」を使用するかどうかを指定します。0から1以外の数値が指定された場合、0が指定されたときみなされます。	
			0または省略	「シフトキャラクタ」を使用しません。異なる「コードセット」への移行は「コードキャラクタ」によって行なわれます。
			1	異なる「コードセット」への移行を「シフトキャラクタ」により行います。基準となる「コードセット」は「スタートキャラクタ」により決定されます。
注意	本関数は入力文字列を解析し、「コードセット」を自動で切り替えます。意図しないコードセット切替による不具合を避けるため、「CODE128制御文字」は使用しないでください。			
注意 2	EXCELにおけるセル内改行コードは"LF"です、読取時に正しく改行されない等の問題が発生した場合は、引数"newline_char"に1を指定して、改行コードを"CR+LF"に変換することで問題が解決することがあります。			
注意 3	一部の読み取りデバイスでは、データによってはバーコードの途中までしか認識していない場合でも、正しいバーコードと誤認してしまうことがあります。引数"start_char"を使用し、異なる「スタートキャラクタ」を使用することで、不具合を回避できる可能性があります。			
注意 4	引数"use_shift"に1を指定した場合、必ずしも出力結果が短くなるとは限りません。例えば「スタートキャラクタA」が使用された場合において英小文字が多用された場合などにおいて、出力は非常に長い物となる可能性があります。			
text	Code128Test 0123456789end			
newline_char	1:改行コード"CR+LF"を使用する			
no_c_comp	0:コードセットCによる圧縮を行う			
start_char	0:スタートキャラクタを自動判別する			
use_shift	0:コードキャラクタを使用する			
CODE128文字列	iCode128EiTĖestĖmjÇ!7McyĖendgĭ			
バーコード フォント表示				
HRI文字列	Code128Test0123456789end			
HRI(全表示)	(StartB)Code128(CodeA)(HT)T(CodeB)est(CodeA)(CR)(LF)(CodeC)0123456789(CodeB)end[CD:71](Stop)			
備考	サンプルでは"HT" (水平タブ) を使用しています。 "HT"は「コードセットA」のみで使用可能ですが、英小文字は「コードセットB」のみで使用可能です。 本関数は必要な「コードキャラクタ」を自動で挿入します。			

関数名	CODE128_Code128ToHri			
説明	「CODE128文字列」をデコードして「HRI文字列」に変換して返します。入力には「スタートキャラクタ」、「チェックキャラクタ」及び、「ストップキャラクタ」が付いている必要があります。デフォルトでは「チェックキャラクタ」及び、制御文字を表示しません。			
書式	CODE128_Code128ToHri(code128_text,[show_check],[show_ctrl])			
引数	code128_text	文字列型	必ず指定します。「HRI文字列」に変換する「CODE128文字列」を指定します。 「CODE128文字」以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。	
	show_check	整数型	「チェックキャラクタ」を表示するかどうかを指定します。 0から2以外の数値が指定された場合、0が指定されたとみなされます。	
			0または省略	「チェックキャラクタ」を表示しません。
			1	「チェックキャラクタ」を「チェックデジット」として出力します。 書式："[CD:(チェックデジット)]"
			2	「チェックキャラクタ」を「シンボル」として出力します。出力内容は「コードセット」に依存します。 書式："[CC:(シンボル)]"
	show_ctrl	整数型	省略可能です。出力に制御文字シンボルを含めるかどうかを指定します。 引数"show_check"はこの引数の影響をうけません。 0から2以外の数値が指定された場合、0が指定されたとみなされます。	
			0または省略	「ASCII制御文字」、「CODE128制御文字」、「スタートキャラクタ」、及び、「ストップキャラクタ」は出力に含めません。
			1	出力に「ASCII制御文字」を含めます。
			2	出力に全ての「シンボル」を含めます。
	注意	引数"show_check"に2が指定された場合の「シンボル」は、「コードセット」により異なります。同一の「シンボル」が異なる「コードセット」で同一の「CODE128コード」を示すとは限らないことに注意してください。例えば「シンボル」"FNC4"の「CODE128コード」は、「コードセットA」の場合"101"ですが、「コードセットB」の場合"100"になります。		
text	HUMAN READABLE			
show_check	1:チェックデジットを表示する			
show_ctrl	2:出力に全ての制御文字を含める			
CODE128文字列	ĚHUMANjREADABLE<Ĭ			
バーコード フォント表示				
HRI文字列	(StartA)HUMAN(LF)READABLE[CD:28](Stop)			
備考				

単純変換関数群

関数名	CODE128_Data2Code128A		
説明	「スタートキャラクタA」を使用して「CODE128データ」を「CODE128文字列」に変換します。 「コードセット」の自動判別、「CODE128制御文字」の追加などはありません。 「スタートキャラクタ」、「チェックキャラクタ」及び、「ストップキャラクタ」は自動で付与されます。		
書式	CODE128_Data2Code128A(text)		
引数	text	文字列型	必ず指定します。「CODE128文字列」に変換する「CODE128データ」を指定します。「CODE128文字」以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。
注意	本関数は入力文字列の解析を行いません。テキストには全ての「ASCII文字」及び、「CODE128制御文字」が使用可能ですが、「コードセットA」で使用できない文字を使用する際は、ユーザー側で「コードキャラクタ」又は、「シフトキャラクタ」を挿入し、適切な「コードセット」を指定する必要があります。		
text	CODESETA		
CODE128文字列	ĖCODESETiAOĩ		
バーコード フォント表示			
HRI文字列	CODESETA		
HRI(全表示)	(StartA)CODESET(HT)A[CD:47](Stop)		
備考			

関数名	CODE128_Data2Code128B		
説明	「スタートキャラクタB」を使用して「CODE128データ」を「CODE128文字列」に変換します。 「コードセット」の自動判別、「CODE128制御文字」の追加などはありません。 「スタートキャラクタ」、「チェックキャラクタ」及び、「ストップキャラクタ」は自動で付与されます。		
書式	CODE128_Data2Code128B(text)		
引数	text	文字列型	必ず指定します。「CODE128文字列」に変換する「CODE128データ」を指定します。「CODE128文字」以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。
注意	本関数は入力文字列の解析を行いません。テキストには全ての「ASCII文字」及び、「CODE128制御文字」が使用可能ですが、「コードセットB」で使用できない文字を使用する際は、ユーザー側で「コードキャラクタ」又は、「シフトキャラクタ」を挿入し、適切な「コードセット」を指定する必要があります。		
text	codeset b		
CODE128文字列	ıcodesetÂbĜı		
バーコード フォント表示			
HRI文字列	codeset b		
HRI(全表示)	(StartB)codeset b[CD:39](Stop)		
備考			

関数名	CODE128_Data2Code128C		
説明	「スタートキャラクタC」を使用して「CODE128データ」を「CODE128文字列」に変換します。 「コードセット」の自動判別、「CODE128制御文字」の追加などはありません。 「スタートキャラクタ」、「チェックキャラクタ」及び、「ストップキャラクタ」は自動で付与されます。		
書式	CODE128_Data2Code128C(text)		
引数	text	文字列型	必ず指定します。「CODE128文字列」に変換する「CODE128データ」を指定します。「CODE128文字」以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。
注意	本関数は入力文字列の解析を行いません。テキストには全ての「ASCII文字」及び、「CODE128制御文字」が使用可能ですが、「コードセットC」では1文字が2桁の数字として解釈されます。数字以外の文字を使用する際は、ユーザー側で「コードキャラクタ」を挿入し、適切な「コードセット」を指定する必要があります。		
text	CODESET C		
CODE128文字列	ıCODESETÂCĖı		
バーコード フォント表示			
HRI文字列	354736375137520035		
HRI(全表示)	(StartC)354736375137520035[CD:101](Stop)		
備考	入力文字は、「コードセットC」として解釈されます。		

補助関数群

関数名	CODE128_Val2ChrW		
説明	「CODE128コード」から、「Unicode文字」を返します。		
書式	CODE128_Val2ChrW(value)		
引数	value	数値型	必ず指定します。「Unicode文字」に変換する「CODE128コード」を指定します。 指定できる数値は 0 から 106 です。範囲外の数値を指定した場合、エラーが返されます。
value	33		
Unicode文字	A		
備考			

関数名	CODE128_Chr2ValW		
説明	「Unicode文字」から、「CODE128コード」を返します。		
書式	CODE128_Chr2ValW(char)		
引数	char	文字列型	必ず指定します。「CODE128コード」に変換する「Unicode文字」を指定します。 「CODE128文字」以外の文字が指定された場合、エラーが返されます。
char	A		
CODE128コード	33		
備考			

関数名	CODE128_CalcCheckDegit		
説明	「スタートキャラクタ」と「CODE128データ」から、「チェックデジット」を計算して返します。		
書式	CODE128_CalcCheckDegit(text)		
引数	text	文字列型	必ず指定します。「スタートキャラクタ」と「CODE128データ」を連結して指定します。「CODE128文字」以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。
text	iCheckCharCalc		
チェックデジット	82		
備考	「チェックキャラクタ」を得るには、「CODE128_CalcCheckChar」関数を使用してください。		

関数名	CODE128_CalcCheckChar		
説明	「スタートキャラクタ」と「CODE128データ」から、「チェックキャラクタ」を計算して返します。 本関数は、「CODE128_CalcCheckDegit」関数のラッパーです。		
書式	CODE128_CalcCheckChar(text)		
引数	text	文字列型	必ず指定します。「スタートキャラクタ」と「CODE128データ」を連結して指定します。「CODE128文字」以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。
text	iCheckCharCalc		
チェックキャラクタ	r		
備考	「チェックデジット」を得るには、「CODE128_CalcCheckDegit」関数を使用してください。		

関数名	CODE128_Num2Data		
説明	「数字文字列」を「コードセット C」を使用して 1 文字で 2 桁の数字を示す「CODE128データ」に変換して返します。		
書式	CODE128_Num2Data(text)		
引数	text	文字列型	必ず指定します。「CODE128データ」に変換する「文字列」を指定します。 数字のみ使用可能です。偶数桁である必要があります。 数字以外の文字が含まれていたり、偶数桁ではない場合、エラーが返されます。
text	01234567899876543210		
CODE128データ	!7McyÆIV@*		
備考			

関数名	CODE128_Symbol2Chr				
説明	与えられた「ASCII制御文字」及び、「CODE128制御文字」の「シンボル」から、対応する「CODE128文字」を返します。取得できる文字が、各コードセット間では異なる意味を持つことに注意してください。				
書式	CODE128_Symbol2Chr(symbol)				
引数	symbol	文字列型	必ず指定します。「CODE128文字」に変換する「シンボル」を指定します。 以下が使用できます。大文字と小文字は区別されます。 不正な値が指定された場合は、エラーが返されます。		
			コードセット A	ASCII 制御文字	NUL、SOH、STX、ETX、EOT、ENQ、ACK、BEL、BS、HT、LF、VT、FF、CR、SO、SI、DLE、DC1、DC2、DC3、DC4、NAK、SYN、ETB、CAN、EM、SUB、ESC、FS、GS、RS、US
				CODE128 制御文字	CodeB、CodeC、FNC1、FNC2、FNC3、FNC4A、ShiftB
			コードセット B	ASCII 制御文字	DEL
				CODE128 制御文字	CodeA、CodeC、FNC1、FNC2、FNC3、FNC4B、ShiftA
			コードセット C	CODE128 制御文字	CodeA、CodeB、FNC1
			共通	CODE128 制御文字	StartA、StartB、StartC、Stop
注意	取得した文字が各コードセット間では異なる意味を持つことに注意してください。例えば「コードセットA」におけるシンボル「US」はCODE128コード「95」ですが、「コードセットB」の場合CODE128コード「95」は「DEL」を意味します。また、「コードセットC」の場合は数字としての「95」を示します。				
注意 2	シンボル「FNC4」は「コードセットA」及び、「コードセットB」で使用できますが、「コードセット」により文字が異なります。 「コードセットA」で使用する場合はシンボル名に「FNC4A」を指定してください。 「コードセットB」で使用する場合はシンボル名に「FNC4B」を指定してください。				
symbol	CR				
CODE128文字	m				
備考					

関数名	CODE128_Val2Symbol				
説明	与えられた「CODE128コード」及び、「コードセット」から対応する「シンボル」を返します。「コードセット A、B」における図形文字及び、「コードセット C」における値はそのまま出力されます。				
書式	CODE128_Val2Symbol(value,[code_set])				
引数	value	数値型	必ず指定します。「シンボル」を取得するに変換する「CODE128コード」を指定します。 指定できる数値は 0 から 106 です。範囲外の数値を指定した場合、エラーが返されます。		
	code_set	数値型	省略可能です。引数"value"がを解釈すべき「コードセット」を指定します。 0から2以外の数値が指定された場合、0が指定されたとみなされます。		
			0または省略	「コードセット A」として解釈します。	
			1	「コードセット B」として解釈します。	
			2	「コードセット C」として解釈します。	
value	77				
code_set	0:コードセット Aとして解釈				
CODE128文字	(CR)				
備考					

おまけの関数

関数名	CODE128_CalcCheckDegit_Mod10w3		
説明	「数字文字列」から「モジュラス10/ウェイト3」方式で「チェックデジット」を求めます。 「JANコード」、「料金等代理収納GS1-128シンボル」や「GTIN-13」等で使用できます。		
書式	CODE128_CalcCheckDegit_Mod10w3(text)		
引数	text	文字列型	必ず指定します。「チェックデジット」を得る「数字文字列」を指定します。 「ASCII文字」のうち、数字のみ使用可能です。数値以外の文字が含まれている場合、エラーが返されます。
text	490123456789		
チェックデジット	4		
備考			